

第 1 回 館山市議会定例会会議録

(第 5 号)

1 平成2年3月14日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 26名

1 番 脇田 安保	2 番 永井 龍平
3 番 田沢 勝信	4 番 庄司二三男
5 番 岩村 勝弘	6 番 山崎 雅己
7 番 生稲 隆	8 番 鈴木 勝美
9 番 山口 康雄	10 番 鈴木 忠夫
11 番 神田 守隆	12 番 榎本 春光
13 番 山中金治郎	14 番 小宮 利夫
15 番 横溝 功	17 番 石井 謀
18 番 日下 君敏	19 番 川名 正二
20 番 福原 勤	21 番 辻田 実
22 番 黒川 平治	23 番 流山源次郎
25 番 渡辺 昭夫	26 番 近藤 好雄
27 番 林 豊	28 番 飯田 義男

1 欠席議員 1名

16 番 石井 昌治

1 出席説明員

市 長 半澤 良一	助 役 小倉 澄男
収 入 役 渡辺 弘	市長公室長 錦織 茂
総 務 部 長 渡辺 秀夫	民 生 部 長 小幡 清之
経 済 部 長 安西 良一	水 道 課 長 鈴木 信一
教 育 委 員 会 長 福原 修	

1 出席事務局職員

事 務 局 長 川上 義雄	事 務 局 長 補 佐 兵藤 恭一
書 記 鈴木 哲	書 記 鈴木 修一
書 記 加藤 浩一	

1 議事日程（第5号）

平成2年3月14日午前10時開議

- | | | | |
|------|---|-------|------------------------|
| 日程第1 | { | 議案第1号 | 平成2年度館山市一般会計予算 |
| | | 議案第2号 | 平成2年度館山市国民健康保険特別会計予算 |
| | | 議案第3号 | 平成2年度館山市老人保健特別会計予算 |
| | | 議案第4号 | 平成2年度館山市ユースホステル特別会計予算 |
| | | 議案第5号 | 平成2年度館山市学童災害共済事業特別会計予算 |
| | | 議案第6号 | 平成2年度館山市水道事業特別会計予算 |
| | | 議案第7号 | 平成2年度館山市国民宿舎事業特別会計予算 |

開 議 午前10時02分

◎議長（林 豊君） 本日の出席議員数25名、これより第1回市議会例会第5日目の会議を開きます。

議長の報告

◎議長（林 豊君） この際、申し上げます。

議案中一部印刷の誤りがあり、訂正されたいとの申し出がありました。お手元に配付の正誤表により御了承を願います。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（林 豊君） 日程第1、議案第1号乃至議案第7号平成2年度一般会計及び特別会計予算を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（林 豊君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。なお、発言の際はページをお示しくださるようお願いをいたします。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

(11番議員神田守隆君登壇)

◎11番(神田守隆君) 通告いたしました諸点に沿いまして質問をしたいと思います。予算書の事項別明細書に沿って質問をいたします。

まず、50ページであります。文書広報費の中で印刷製本費 1,525万 5,000円計上されてあるわけでありますが、この印刷製本費に関してお尋ねをいたします。新聞報道によりますと、厚生省がこの4月から一部を除いて厚生白書などの出版物を含めて、再生紙を利用することにしたとのこととあります。このために必要な予算は厚生省全体として 830万円ほどに過ぎず、そのために 3.6ヘクタールもの山林が保護されることになるということとあります。市の紙の利用も相当なものになると思うわけでありますが、資源の再利用を進め、環境を保護していく上で、市としても再生紙の利用に積極的に取り組むお考えはございませんか。役所の中で使う紙の量も相当なものになると思いますので、それらについてどう考えておりますか。また、市の広報や回覧、また議会報など市民に対して市はさまざまな文書を発行しておりますけれども、これらの用紙についても再生紙を利用し、その欄外などにこの紙が再生紙であることを明示し、市としても古紙の回収とあわせて環境保護の姿勢を積極的に市民に訴えていくことをしてはどうかと思うのでありますが、いかがでありましょうか。市長のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

次に、78ページであります。老人福祉費に関してお尋ねを申し上げます。90年度は政府の高齢者保健福祉10カ年計画の初年度と位置づけられております。この10カ年計画では、在宅福祉の充実がいわば政策上の目玉とされ、その3本柱としてホームヘルパーは10万人に増員、デイセンターは1万カ所、ショートステイのベッドは5万床にするとされております。この水準は単純な人口割で考えますと、館山市でホームヘルパーは50人規模ということになりますし、デイセンターは5カ所、ショートステイは25床ということになります。いずれも10年後の目標として、その初年度として本年度の予算を考えるというのでありますけれども、市長はこの10カ年計画についてどのように考え、本年度の中で位置づけておるのかお聞かせをいただきたいと思います。

次に、91ページであります。環境衛生費ということで 5,347万 1,000円計

上されております。これに関連をしてお尋ねをしたいと思います。巴川の流域に白浜町が仮称白浜スポーツプラザを計画しております。既に、関係町内などで周辺住民への説明会が開かれています。この計画地域は巴川の流域になっており、この開発の中心はゴルフ場であります。当然市にも協力の依頼など、白浜町やあるいは業者からあったものと思います。この計画は巴川流域の環境に重大な影響があるものと懸念されるわけでありますけれども、市長はこの計画についてどのようにお考えになっておりますか、お聞かせをいただきたいと思います。

また、これと関連をいたしまして、先日の県議会で沼田知事は県内のゴルフ場について、4月以降開設のものについては農薬の使用を禁止する、また既設のものについては農薬を使用しないよう協力を求めていくとしております。それ自体大変思い切ったことだと思うのでありますが、市内には現在4つのゴルフ場の計画がありますし、既に既設の2カ所のゴルフ場があります。市としても重大な関心を寄せていることと思います。このゴルフ場の農薬使用禁止について、市長はどのようにお考えになっておりますか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、121ページであります。都市計画費が計上されているわけで、この都市計画行政という点から宅地開発指導要綱についてお尋ねをしようとするものであります。建設省は昨年12月、「開発指導行政の円滑な執行のための周辺住民等との調整に関する事務処理マニュアルについて」なる通達を出しております。その内容を読みますと、開発許可に当たって住民との同意書の添付を義務づけないようにと強調し、開発事業には周辺住民との同意の必要がないようにも読み取れます。開発業者は鬼の首でも取ったように、建設省のこの通達で住民の同意は要らないのだと盛んに強調しているところであります。建築基準法に適法でさえあれば周辺住民の迷惑にお構いなしに開発事業はできるというのでありましょうか。それはとんでもないことであります。館山市宅地等開発指導要綱第7条では、「事業者は事業により周辺に影響を及ぼすおそれのあるものについては事前に関係者の同意を得なければならない」とあります。この指導要綱の公的な効力について、最高裁判所はそ

の判決の中で適法性を認めております。業者は指導要綱には法的な拘束力はないと言っておりますが、それは間違いであります。そこでお尋ねいたしますが、関係者の同意がなければ、市としては開発に関する手続は進ませるべきではないと思うのでありますが、いかがお考えでありますか。

次に、関係住民との話し合いということになり、その結果として合意に至ればそのことを文章にして協定化することになると思います。市としても、あとに問題や紛争を残さないためにきちんと協定をかわすよう業者を指導する考えはございませんか。

次に、行政指導による建築確認の留保について争われた最高裁、昭和60年7月16日の判決では、たとえ業者のその事業が建築基準法に適合していても、その事業が社会通念上正義の観念に反するときの確認留保の行政指導は適法であることを認めております。これは、大変重要な判決だと思います。この判決では、社会通念上正義の観念に反するとはどういうことをいうのか具体的な例示はありませんが、建築基準法に適合してさえいれば、業者が任意に協力する場合以外には建築確認は出さなければならない。行政指導と称して確認を出さないことは違法であるとの考えに対して、最高裁判所はそうではなく、たとえ建築基準法にその根拠がなくとも、社会通念上正義の観念に反する事業に対する確認留保の行政指導は適法だということを示し、開発指導要綱などに基づく行政指導を認知し、その適法性の範囲を示したものとなっております。

そこで、問題は最高裁のいう社会通念上正義の観念に反するとはどういうことかということになるかと思います。一般質問でもお尋ねいたしました館山リゾートマンションでは、市営住宅の障害者住宅が日陰になるわけがあります。業者の出した冬至の日の日陰図では、障害者住宅の104号は午後1時ごろには完全に日陰となり、同じく障害者住宅の103号、102号と順に日陰となり、障害者住宅101号は午後2時ごろから完全に日陰になります。ところで、身障者住宅は今でも前に建つ市営住宅のために、例えば104号は日が完全に当たるようになるのは午前11時ごろからであります。101号では9時ごろまで日が当たり、2時ごろまで日陰になります。身障者住宅は午前8

時から午後4時までの冬至日の日照は現在でさえ3時間乃至5時間でありま
す。公営住宅建設基準では冬至日において4時間以上日照を受けることがで
きるものでなければならないと定めていますが、現在でもこの規定ぎりぎり
乃至は以下の状態であります。館山リゾートマンションは辛うじて残された
日照をさらにこの上2時間乃至3時間奪うことになります。この結果、身障
者住宅4戸の冬至日の日照は1時間乃至2時間ということになり、もはや人
権問題とさえ言えます。この館山リゾートマンションが建築基準法に適合し
ているとはいっても、公営住宅法や障害者福祉の理念から考えて、社会通念
上正義の観念に反することではないかと思うのでありますが、いかがお考え
でありましょうか。

次に、風害についてであります。中高層建築では房州地区の場合、風が
強いところなのでどこでも問題になると思います。市のリゾートマンション
指導要綱でも、この風害についてその予防措置についてできるだけ影響を及
ばさないようにすることとしております。率直に言いまして、この風害につ
いては予防措置も大変難しいですし、風害については建ってみなければわか
らないというのが現実であります。しかし、また建ってしまえば今度はたと
え風害による被害が出て、その被害とその中高層建築物との因果関係を立
証するのが大変難しいということになります。結果的に被害に遭っても立証
できなければ泣き寝入りということになります。住民との協定の中で、風害
の補償は重要なテーマだと思うのでありますが、こうした実情から見れば被
害に対して業者の無過失責任性を入れて、その被害がその建築物と無関係で
あることを業者が立証しない限り、業者が責任を負うことが必要ではないか
と思うのであります。風害の補償について、市はどのように考えております
か、お聞かせをいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（林 豊君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 神田議員の御質問にお答えをいたします。

第1点でございますが、再生紙利用についての考えをという御質問でござ

いますが、広報館山は市と市民を結ぶメディアとして市政の動きをタイムリーにお知らせするため、毎月1回発行しているわけですが、編集面で写真を多用するなど見やすさを追求し、親しまれる紙面づくりに努力しているところでございます。これらの効果を求めるには、鮮度の高い紙質の使用が必要でありますので、当面これまでどおりの形式で作成してまいりますが、紙ごみの減量と紙の原料である森林資源保護の立場から、今後の検討課題としてまいります。なお、庁内で使用する紙は平成2年度からできる限り再生紙に切りかえる方針でございます。

次に第2点、高齢者福祉10カ年計画についての御質問でございますが、現に国においては具体的な利用計画を示しておりません。また、県においても3月に国とのヒアリングが行われるとのことでございますので、当市といたしましては国、県の指導を受けながら積極的に今後の対応を図ってまいりたいと考えております。

次に、第3点目の1点目でございますが、巴川流域の白浜スポーツプラザ計画についてどう考えるかと、こういう御質問でございますが、この計画は白浜町滝口及び根本地区に全体計画面積で約127ヘクタール、このうちゴルフ場面積が約99ヘクタールの計画と白浜町から伺っております。巴川の流域を調査いたしましたところ、全体計画の約79%が本河川の流域となっており、下流では農業用水として取水をしておりますので、館山市域にどのような影響があるのか、さらに調査検討をしているところでございます。なお、調査結果によりまして、市の意向をまとめまして白浜町に伝える考えでございます。

また、ゴルフ場の農薬禁止についての御質問でございますが、ゴルフ場の農薬禁止につきましては、新聞等の報道によりますと千葉県知事が県議会でもゴルフ場等の開発事業に関する指導要綱を4月1日から改正し、新設されるゴルフ場には農薬の使用を全面的に禁止するという方針を明らかにしたということでございますが、適正に使用すれば害はないと言われております農薬を使用しないで済むならば、さらに環境保全上非常に望ましいことだと考えております。

次に、都市計画費についての宅地等開発指導要綱の同意条項についての御質問でございますが、昭和58年7月の建設省の措置方針によりますと、宅地開発に関する指導につきましては、周辺の住民の同意書の提出まで求めることは適当でないとされております。しかし、開発行為につきましては、周辺の住民の意向が重要と考えられますことから、館山市宅地等開発事業に関する指導要綱において、住民の同意を得るように指導しているところでございます。事業者には町内会あるいは区内の住民に対し、計画内容を十分に説明するよう指導し、同意が得られた場合は個々の同意ではなく、代表者である町内会長あるいは区長等の同意書を添付させているところでございます。なお、同意が得られない場合につきましては、重ねて同意が得られるよう事業者になお一層の努力を指導しておりますが、長期にわたる場合は交渉の経過、協議の内容等の報告書の提出を求め、調整を図ってまいりたいと考えております。

次に、リゾートマンション業者との協定についてどう考えるかという御質問でございますが、開発等に伴う協定及び覚書の締結につきましては、特に市としては指導をしておりませんが、過去の例として当事者間において協定あるいは覚書が締結されていることは承知いたしております。今後、市といたしましても開発事業による関係住民との紛争を未然に防止するため、必要に応じ当事者間で協定を結ぶことは望ましいことと考えております。

次に、日陰の問題でございますが、那古市営住宅につきましては障害者向け住宅として4戸ございますが、今回建設しようとするリゾートマンションによる日陰の影響について、特に障害者と健常者との区別はいたしていません。なお、社会通念上正義の観念に反するかどうかにつきましては、市で判断すべき問題ではないというふうに考えております。

次に、風害について建設業者の挙証責任を明確にする考えはどうかということでございますが、建設事業により事業区域周辺に影響を及ぼすおそれのあるものにつきましては、事前に近隣住民と協議するよう指導しておりますので、風害と思われる被害が生じた場合の対策、挙証責任等につきましても建築主等と近隣住民双方で協議されるべきものと考えております。

以上、答弁終わります。

◎議長（林 豊君） 11番議員。

◎11番（神田守隆君） 再生紙の利用問題については、今後広報等についても検討していくということですから、ひとつぜひこういう環境保護というふうな視点を入れながら今後考えていただきたい、また庁内ではこの4月からそういうふう to 実施するようでありますから、そういうことでお願いしたいと思います。

老人福祉費についてでありますけれども、国、県の指導内容がはっきりしないので今んとこそれを待っているんだというお話で、ということはこの10カ年計画、これに沿って今度の予算は——市の予算は少なくとも全然検討はされていないというふうに今の御答弁から理解せざるを得ないんですね。そういたしますと、改めて今後この問題については大幅な補正かなんかが国、県の指導の結果が出てくるということになるのかなという気もするんです。これ中身が出てこないとわからんという面があるんでしょうけれども、そこでここではっきりさせておきたい点は、ホームヘルパーは大体人口割と、私かなり荒っぽいやり方しましたがけれども、10万人となりますと館山市5万6,000の人口で、全国のあれで人口割で考えても50人規模なんですよね。たしか今館山市のホームヘルパーは10人そこそこではないかなと思うんです。10カ年でこれを4倍だ、5倍だという水準に持ち上げるということ、あるいはデイケアセンターに至っては現在5カ所つくる——中学校区ごとぐらいには少なくともつくんなきゃなんらんということになるでしょうし、1カ所もないわけで、かなりお金もかかるでしょうし、さらにまたショートステイについても25床を確保するというのは、現在の特別養護老人ホームのところを借りてやっているというようなレベルで考えているんではとてもとてもというふうに思うんですね。この10カ年計画で出されたものは相当大的な規模なものですから、大変なことだと思うんですね。

そういう点から現在の水準、ホームヘルパー何人おって、デイケアセンターについては何カ所あるというふうに考えておって、ショートステイのベッド数については、現在市が持っているものは何床あるか、この政府の示され

た10カ年計画ではそれをどういう水準に、私かなり荒っぽい形で人口割なんてことを言いましたけれども、市の方では現状はどうで、10年後のそれではどのくらい的水準というふうに考えてこの問題を受けとめておるのか、お示しをいただきたいと思います。

それから、環境衛生費の関係で白浜の問題については今後検討を — まだ調査中だということで、現在の時点でこれについての是非についての態度についてはお示しいただけなかったわけですが、大変重大な問題はたくさん持っていることになると思うんです。白浜町との間にはいろんないきさつもございます。そういうこともありますけれども、やはり住民の生活環境がこのために被害を受けるというようなことのないという、そういう視点から十分な調査をぜひしていただきたいと思います。

宅地開発指導要綱の関係でございますけれども、関係者の同意の問題で、市としても周辺住民の意向が大事だから同意を指導している、実際には代表者、町内会長、自治会長とか、そういう区長さんとかいう方の同意書の添付もしていただいているんだというお話でございましたけれども、しかしながら長期にわたるこの紛争が続くという場合にわたっては、その経過、いきさつについての報告書ですか、これを業者から出してもらって、それで調整を図りたいということでありました。ということは、この指導要綱では同意といっていますけれども、長期に紛争わたる場合には同意書がなくても市が市の判断でそれを認めていくと — 開発を認めていくということがあり得るんだと、こういうお話だろうと思うんですね。

そこでお聞かせいただきたいのは、市は長期にわたるという場合、これどういうふうにお考えになっているのか。長期というのはわかったようでわかんないんですね。非常に主観的なあれが入りますから、一応どういうものを長期というふうに考えておるのか、お聞かせをいただきたい、また過去どういう — 過去の実例で長期というものについてはどういような判断でされたか、それ経過、いきさつがあるならば御説明をいただきたいと思います。

それから、関係住民との協定の問題については、そういうことについて市としても望ましいことだということでもありますから、それはそれで了解をい

たします。

そこで日陰の問題、障害者住宅だからといって特別に考えてはいないということとか、それから市としてはこの社会通念上正義の観念に反するか反しないかという問題については市で判断はできないと、こういうお話でございました。これは裁判長がやる判断ですからね。しかし、最高裁判所はそういうものを一応示したということが大事なんですね。ですから、ここでいうことは、私が指摘したい点は建築基準法に適合してさえいればいいんだというふうにはいえませんよということなんですね。

そこで、私この日陰の問題で冬至日、この障害者住宅が現在でも大変日が当たらないわけですがけれども、公営住宅法の中では、公営住宅の建設基準、これで公営住宅は4時間以上の日照があるように建物を建てなさいとなっているんですね。建てる時はそうだけど建った後は後は知らんけども、1時間になろうが2時間になろうが後は知らんというんじゃ、これは大家さんとして市はどんな管理をやっているんだということになるわけです。現在、辛うじて4時間ぎりぎり乃至はそれをちょっと下回るかなというぐらいの日照なんですね、現実には。この障害者住宅に関しては。この点について、市としては障害者住宅の日照の現状についてどのようにお考えになっておるか。大体私は3時間乃至5時間だろうと思ってるんですけども、市としてはどういうふうに受けとめておるか。

そして、この館山リゾートマンションができますと、各部屋によって違いますけども、さらに今東の——朝日が当たらなくなっていますから、今度は昼過ぎから日が当たらなくなるんですね、リゾートマンションができますと。それによって2時間乃至3時間ぐらいまた日が当たらなくなる、トータルで見ますと1日じゅう当たなくなっちゃうんですね、本当に1時間乃至2時間になっちゃうんですよ。それは私はそういうふうに——図面を落としてみますとそういうふうになるんですけども、冬至日ですね。市としてはそれをどういうふうに現状を見ておるのか、お聞かせをいただきたいと思います。まずその事実の認識です。これが1つ。

その次に、これは公営住宅の4時間の基準との兼ね合いで、これは人権問

題にもかかわるんじゃないかというふうに思うんですけども、これは市長さんの方の少しお考えをいただきたいんですね。お答えをいただきたいんですけども、公営住宅の事業主体、市ですから大家さんという立場になるわけで、そういう立場から考えてやはり公営住宅で4時間とっている、これは守る必要があるんじゃないか、その点でこのいろいろ建築基準法ではリゾートマンション——館山リゾートマンションさんについては適法だとはいっても、ここはひとつ考えてもらわなきゃいけないところなんじゃないか、その点についてどう市長さんはお考えになるか。これはひとつ人権にかかわる問題ではないかと思いますので、お聞かせをいただきたいと思います。

それから、指導要綱のこの風害の関係でありますけども、十分住民との間で協議をして、そういう中で解決してもらいたいということで、市としては特に立ち入ってすべきだとか指導をするとかということについては住民に任せるとというのが御答弁でありましたけれども、もう一步突っ込んでこの問題について研究をしていただけたらと思いますけども、これについては一応質問はこれでとどめておきます。

◎議長（林 豊君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） ホームヘルパー並びにデイサービスセンター、ショートステイの現況と10年後の水準はどう考えているかという御質問でございますが、まず現況につきましては現在ホームヘルパーは8人でございます。また、入浴のヘルパーが2人、看護婦が1人ということでございます。デイサービスにつきましては、訪問サービスということでもって入浴サービスですとか洗濯サービスですとか、いろいろやっておるわけですが、施設への通所ということでデイサービスセンターは現時点ではございません。しかし、これはやはり養護老人——特別養護老人ホーム等の施設を使わないとできないものでございますので、現状ではまだその受け入れができていないということでございます。それから、ショートステイにつきましては現在特別養護老人ホームと委託契約を結びまして、5床がその短期入所用のベッドとして確保されておりますが、これは館山市だけではございまして、7市町村で5床が確保されておまして、今のところ5床で入れないというよ

うな事態にはなっておりません。

10年後ということですが、これはホームヘルパー等は先ほど神田議員のお示しになった50人というようなのは、国の総体の数からこれを割り返したものだと思うわけですが、今後実情に応じまして、現在も需要がふえればその都度補正なり何なりでヘルパーの数は増加しているわけですが、さらに今後は祝祭日、休日等のじゃサービスはどうするか、あるいは夜間はどうかという問題は当然出てくると思いますんで、そういったことも踏まえまして、その需要に応じて増員してまいりたいと、こんなふうに考えております。

また、デイサービスセンターにつきましては、これは近隣の市町村も何とかそういった方向でやっていきたいというような希望もあるようでございますので、特別養護老人ホーム、これは増設しなければならないわけですが、そこに増設することにつきまして施設長と協議、また近隣町村との協議を進める中で、積極的な対応を図ってまいりたいと、こんなふうに考えております。

また、ショートステイ用のベッドにつきましても、これは現在100人定員のところの中での5床が割り当てられているわけですが、これをさらに25床にふやすということになると、増設ということも対応として出てくるわけですが、これらも施設とよく協議しながら将来に向けて検討をしてまいりたいと、こんなふうに考えております。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 長期にわたり同意が得られなかった場合の長期とはという御質問でございますが、開発の内容あるいは事業者の地元対応に対する姿勢によりまして、おおむね数カ月程度というように考えております。

それから、現在の建物、市営住宅の関係でございますが、現在の市営住宅の冬至日の状況はどうかという御質問でございましたが、これにつきましては神田議員のおっしゃる御指摘のとおり、私どももそのように認識しております。

以上です。

◎議長（林 豊君） 半澤市長。

◎市長（半澤良一君） 公営住宅の日照の件につきましては、確かに公営住宅は下の居住者の窓口が、そういう冬至日において4時間以上日照を受けることができるものでなければならぬと規定しておりますけれども、御案内のようにただし書きがございまして、「土地の高度利用を図るためやむを得ない場合において、住棟内またはその至近な場所に物干し場、その他これに類する施設で相当時間日照を受けることができるものを設けるときはこの限りではない」、そういうことでございまして、4時間というのはもう絶対なものではございませんし、また今計画されておりますマンションとの関係におきましても、その日照が建築基準法によって確保されるならば、これはやむを得ないというふうに考えるわけでございます。やはり共同生活を営んでいるわけでありますから、権利の主張と同時にやはり受忍義務というものがあろうかと思えます。そういう意味で、法が定められた最低の基準である、それを守っていればこれはやむを得ないというふうに考えております。

◎議長（林 豊君） 11番議員。

◎11番（神田守隆君） 市長さんのお言葉を返すようなんですけれども、住民の主張が——日照4時間を確保しなさいということが権利の乱用か、いやむしろ建物は金もうけのためにやるリゾートマンションの結果、住民の生活環境が侵害される、むしろ業者の方こそ権利乱用なんじゃないか、そこが問題のどこなんですね。最高裁判所のあれでは、その行政指導についてはその建築基準法に適合している場合であっても、行政がそれを指導していくということについて適法性の余地を認めたという点で、先ほどの最高裁の判決が重要な意味を持っているわけです。ですから、建築基準法が通れば何でもいいんだということにはならないんだというのが最高裁の判決の趣旨ですから、ですからその点では確かに建築基準法には合っているとはいえども、こういう住民の権利、この場合は公営住宅で定められたその基準との関係で、どちらを尊重すべきなのかということが問われることになると思うんですね、法的には。そこで、市長は大家さんなわけですから、立場上。これはそ

の権利を主張する立場なんですよ。それをしてもらいたいと思っているわけなんです。市長は今確かに共同生活ですから、お互いに譲り合うことは必要なんです。この場合どちらが譲るのか、どちらが我慢しなきゃならないのか、こういう点では市長は譲ってくれということを言う立場でありますから、そういう立場に立ってもらえないのかということなんですね。

そこで、先ほど市長が言いました公営住宅でただし書きがある、確かに。土地の高度利用を図るため、やむを得ない場合においては物干し場とかあるいは遊び場とか、日照が十分確保できるという場所を別につくれば4時間を割ってもやむを得ないんだというふうになっているんですね。しかし、この場合にはそういうお言葉を返すようで大変恐縮なんですけれども、障害者住宅なんですよ。物干し場とって、健康な人ならば冬の日、日が当たらない、布団を干したい、けども、日陰になっちゃう。そのかわりにこちらに布団を干す場ありますよ、洗濯を干す場ありますよ、行けますよ。障害者住宅ということでは、その意味ではハンディを負っているんです。ですから、そこは同列に論じられない点があるんじゃないかと思うんですね。だから、そういう点を考えれば、これは大家の立場からやはりここは建築主の建築基準法に合っているかもしれない、合っている。しかし、そこは譲ってもらいたい、こういう話をするのが大家の責任じゃないかなと思うんです。いかがですか、市長さん。お聞かせをいただきたいと思います。

それと、老人福祉の関係でありますけれども、現況はホームヘルパーが合わせて10人、デイセンターについては現況では一応ないということで、ショートステイは5床という水準で、御答弁では一生懸命努力したいという点はわかるんですけれども、需要があればそれに応じてどんどんふやしていくことやぶさかでないというのも、それもよくわかるんですけれども、しかし10カ年計画で言っているのは、その規模というのはそういうもうレベルのあれじゃないんですよ。一気に5倍でしょう、10年間の間に。ということなんで、そこらをしっかりと御認識をいただきたいと思います。そこで、改めて現在の時点ではその10カ年計画の目標、館山市としては10カ年計画の最終年度ではどういう水準に持っていくと、こういう計画について一応単純に割り

返した数字を出しましたけれども、大体こんな規模じゃないかなと思うんですが、その辺の計画を立てていくんだと、こういうことで考えてよろしいですか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 大家の立場として企業側と交渉ができないかという、こういう御質問だと思いますが、一応建築基準法はクリアしているわけでございます。しかしながら、御指摘のありましたように住宅の1階部分が特に被害が大きいというような御指摘があるわけでございますが、そういうところから市としてもかなり無理ではないだろうか、企業者側は企業者側としての権利もございますし、いろいろあるわけでございますので、こうしろというわけにはいきませんが、交渉は持てみたいというように考えております。ただ、何せ非常に高い建物でございますので、相当カットしない限りは今御指摘のものは解消できないんじゃないか、そうなってくると、企業者側としてもなかなか折れてこないというようなことが――採算ベースに合わないとか、そういう点が出てきますので、なかなか折れてこないんじゃないかなという気がいたしますが、一応市側といたしましてもお話はして、その後それなりのまた対応策を考えていきたいというように考えております。

以上です。

◎議長（林 豊君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） ホームヘルパー、デイサービスセンター、ショートステイについて、国の10カ年戦略の目標に到達すべくどのような計画を考えておるかということでございますが、先ほど市長から御答弁申し上げましたように、何せ昨年にそれが示され、発表されたわけございまして、まだ詳細についてじゃどういう段階でそこまで持っていくかというような具体的なものは示されてございませんので、それらの動向を見ながら国、県の方針、指導等を受けながら、市としても積極的な方向でそれに近づけるべく努力してまいりたい、このように考えております。

◎議長（林 豊君） 時間でございますので。以上で11番議員神田守隆君の質疑を終わります。

次、21番議員辻田 実君。御登壇願います。

(21番議員辻田 実君登壇)

◎21番(辻田 実君) 通告いたしました10点にわたりまして御質問を申し上げたいと思います。

私は余りしゃべるのが上手でないようでございますので、私が質問していることにつきまして内容がわからない、こういうことではちょっと困るわけでございまして、予算の立案したのは執行部でございまして、私はわからないから質問しているわけでございまして、わからないわけでございまして、それをわかるようにひとつ御答弁いただきたい。そういうことで、おとついの質疑の反省をいたしまして、私はゆっくりと項目別にやりますので、ひとつ答弁書欄ということでもって、何か質問したことを余りそぐわないようなことを棒読みにするようなことのないようにひとつ、予算のことですからお願いしたい。このことをまずもって、そういう立場で御質問申し上げたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

最初の質問でございすけれども、予算7ページの議案第1号、第1条歳入歳出予算の規模について御質問を申し上げたいと思います。ここには歳入歳出それぞれ 115億 3,500万円と、こうなっているわけでございすけれども、この点について御質問を申し上げたいと思うわけです。館山市の予算規模がどうなのかということについては、先ほどの行政質問の中でも質問いたしました。その中で、市長は積極的な財政を組んでおる、こういうことで、非常に強気な答弁をされているわけでございます。

私と同じような同趣旨の質問につきましては、前の議会におきましても、その前の議会におきましても、山中議員とか小宮議員の方から今の館山の財政規模は少ないんじゃないか、こういうことでいろんな方が再三質問しているんですけども、市長はそういうことはない、今の財政事情の中でもって積極的な大型の予算組んでいる、こういうことで終始されてきているんですけども、平行線でございまして、またかというふうな感じが議会の中にはないわけじゃございません。したがって、私はその観点にとって今の館山の財政規模が県下においても余りにも少ない。少ないということについ

てはいろいろな事情があるかしんないけど、少ないから館山の経済が活性化がしてない、むしろ館山の経済は沈滞気味である、こう言わざるを得ない。これはもう経済学、財政学の面からいって財政規模が大きいか少ないかがその経済を決定する要因でございます。今政府でも大型予算を組んで日本の景気を浮揚させよう、予算が小規模になると日本の景気が減るというふうなことでもって、大変苦労しているところはもう御案内のとおりでございます。

そこでもって私は23市の市と電話連絡を主として取りました。それで、人口は1,000単位でもって切り捨てであります。予算については1,000単位は切り捨てて聞きました。電話のやりとりですから必ずしも正確かどうかわかりませんが、ほぼ念を押していますから正確だと思いますから、その上に立って館山市の予算が今どうなっているかということにつきまして私は御質問を4点にわたりましていたしますので、ひとつよろしく願いいたします。この点については、既に文書でもって全文通告してありますので、よく御案内、わかりやすい答弁をお願いします。

1つ、他市に比較して予算の伸び率が低い点をお伺いいたします。本年は外需が減少しているものの、内需は引き続き増加しているので、国の予算は前年対比で9.7%の伸びでございます。これは9年ぶりの大型予算となっているわけでございます。したがって、千葉県内の各市も軒並みに10%を超えている現況でございます。そして、10%以下の市は4市だけでございます。レクチャーのときは5市といいましたけれども、佐原が2.5ということでもって把握しておりましたところが、確かめてみましたら20.5だそうでございますから4市でございました。その4市というのは八日市場、松戸、野田、館山の4市だけでございます。しかも、その館山より1つ上のけつから2番目の松戸は8.7%でございます、伸び率が。これはけつから2番目です。こういうことを見てまいりますと、館山市は5.8%の伸びでありますから余りにも少し過ぎる、もう半分以下でございます。隣の鴨川市が14.8%でございます。それから向こう隣の富津市が12.5%の伸びでございます。これと比べても低いわけでございます。この伸び率の低いという点をどのようにお考えになっておるのか。館山市の伸び率は、ここ私が議員になってから3年

間6%台でございます。ことしは5%に落ちました。ずっと停滞しております。この点でございます。

2番目は、伸び率の低さもさることながら市民1人当たりの予算も余にも低いと思います。隣の鴨川市は人口が3万1,000名でございます。予算は86億でございます。したがって、市民1人当たりの予算は28万円でございます。向こう隣の富津市は人口は館山市とほぼ同じでございます。5万5,000名でございます。予算は206億でございます。館山の倍でございます。したがって、1人当たりの予算は37万円でございます。しかし、館山市は人口5万5,000名で予算が115億円なので、市民1人当たりの予算は21万円でございます。県下の平均の市民1人当たりの平均値を私出してみました。30万円を超えております。館山市は21万円でございます。この状況は数年続いておりますのでございます。このことが今日の館山の活力、経済力を決定的に決めている要因であるというふうに私は思う。その行政責任というのは私は大変なものだと思うわけでございますけれども、この点は市長はいかがにお考えになっておるのか、ひとつ具体的にお答えをいただきたい。

3番目には、前年対比の予算と比べて3年間、私は昭和38年に議員になって、以来その間10年間を置きまして、カムバックして3年目でございますので3年間の数字だけしかわかりませんけれども、これを見ますと63年度の予算は前年対比でもって6.8%、平成元年は6.6%、本年度は5.7%の伸び率でございます。そして、前年予算現額、これは最後の補正を加えた額、補正の最終決定予算額と、そしてその翌年の当初予算の比較しますと63年度の当初予算は102億円ですが、62年度予算現額は103億9,077万円でございますから、1億6,231万円の減少であったわけでございます。昨年、平成元年はこれは50周年ということもあったでしょうけれども、2億2,594万円の増加になっております。本年度は逆に8億8,605万円の減少でございます。これは今かかっている補正予算も決定しておりませんが、補正予算に提案されている補正予算から見ると、本年度の予算額は8億8,605万円減っているんです。大変な額でございます。これだけのものが市の金が使えないということになれば、市民の購買力、需要力、経済力、8億分だけ減る

んです。これは、館山市の経済に非常に大きな影響を私は与えると思うのでございます。この点についてどのようにお考えになっておるのか。

市長は積極的な予算を組んだとっております。市制50周年の事業費を差し引いても実質的には10%ぐらいふえておるとっておりますけれども、今示したように8億も減っているんです。これで市民生活はよくなるでしょうか。私はこの点をどのようにお考えになっておるのか。市長は積極だ、積極だと、決して積極的ではありません。この点についてきょうは簡明にひとつ答えてもらって、そして私ども議員はもうみんな心配しているんです。館山市の予算規模をふやしてもらいたいと。結論的には市民1人当たりの予算が21万円から県平均の30万円へ引き上げてもらいたい、その過程はどうあろうが、それをしてもらえん限りにはどうにもならんというのが多くの議員の意見なんです。この点についてやっぱり答えていただきたい。積極的だ、積極的だ、口で積極的ですよといっても積極的じゃないんです。私の言うのは21万を30万に上げてくれということです。そのときに初めて積極的予算になって、それにならない場合にはそれ以下だという、もっと非常に厳しい言い方でございしますけれども、私はこの際予算の審議でございしますから、この点を強調しておきたいと思ひます。

4番目に、地方債の残高と公債費について質問をいたします。館山市は都市の再開発、さらには公共下水道、それから大型体育館、大型文化会館等の大きなプロジェクト事業がいまだに手がついておらない状況でございします。したがいまして、予算規模も少ないわけでございまして、こうした事業は早く促進しなさいということでもって進めているわけでございしますけど、財政事情その他でもって進まないのが現況でございします。

しかしながら、そういう中においても起債残高が非常に多いんでございします。各市を照会してみますと、予算対比に對しまして本年度の予算です。今年度予算のその起債残高を比べてみますと、館山市は82%の数字になっているわけでございします。全県的にこれを比較してみますと大体70%前後でございします。10%高いんです、館山は。当初予算の割合に対する予算残高の高さは館山はベスト3に入っております、県下の中で。この点も非常に高

いと。公債費の支出割合もしたがいまして予算の10%でございます。大抵のところは7%から8%ぐらいで抑えております。10%を超えているところもありますけれども、非常に少ないです。5つか6つぐらいしかありません。館山市はしたがいまして予算に公債費の返還が10%占めているわけでございます。

本年度は例年と比べて低いものの、5億円ということでございますから、通常7億から8億、ここ七、八年継続しておったものが5億円に減りましたので、この点はいいと思うんですけれども、しかしながら私はここでもって強調したいのは、起債の残高は事業をやればふえる、ふえた場合には予算がふえていけばその割合は減る。したがって、私はここでもって重視したいのは、予算規模は少ない、そして起債残高は高い、高いということを具体的に言いますと、当初予算に対してその起債の割合が高いということでございます。起債額は高くなっても予算が200億になれば、今の起債残額が80億でございするけど、これが150億になっても、予算が250億になればずっとその額は減るわけでございするから、そういう起債の割合に持っていったらえなないか、そのことを強調しているわけでございするけれども、この点について私はひとつわかりやすく率直な、本当に腹を割ったひとつやってもらいたい。ただ、ここでもってメンツのことかどうかわかりませんけども、積極的だ、やれ少くないと、こういうことでは済まされないと。私もようやくこれだけの各市、電話等でございましたけども、調べて、ない頭を絞ってこれだけの数字出したわけでございするから、具体的な答弁をひとつお願いしたいというふうに思います。

それから、今度2番目に移ります。50ページでございます。50ページの13節委託料の中の行政事務委託料でございます。1,366万7,000円について御質問申し上げてあります。町内会に行政委託しているということは、非常にこの重要なことでありますし、そして町内会と市が連携をとるということは非常に大事なことであるわけでございします。そうした中でもって、今町内会の中におきまして予算規模が、予算というか、この行政委託料がもう少し上げてもらえないかというのは、何かその集まるごとにそういう要望が市長の

方に出されているようでございますけれども、今年度の予算を見ますと12万9,000円の減、非常に総体的には少ないわけでございますけれども、12万9,000円の減になっているわけでございます。これは、こうした意向からいって逆行じゃないか。気持ちの上からいって、やっぱり町内会費が少なくなったという、町内会に対するその行政委託料は少なくなったということは、私は今の市と町内会の関係において非常に問題を起こすんじゃないか。これは少しでも上がっていれば問題はなかるうと思うんですけども、こういう観点があって少なくなっているということは非常に残念だと思うわけでございますけど、この点について伺いしたい。

これを、予算の説明書を見ますと、この行政委託料として委託するこの単価、それは2つあるわけでございます。1つは均等割と人数割になっているわけでございます。人数割の700円というのは昨年もことしも同じなんですけれども、1町内当たり均等割の単価が昨年は4,635円であったのが、ことしが4,500円に減っているんです、この単価が。その単価の減った分が減になっているわけでございますけれども、これはどういう事情なのか御説明をいただきたいというふうに思うわけでございます。

3番目の質問に移ります。55ページでございます。19節負担金の中の国際民族音楽フェスティバルの負担金500万円について御質問を申し上げます。50周年記念のメインイベントとして民族フェスティバルが行われたわけでございます。いろいろな情報がございまして、このフェスティバルは2日間でもって2,000名が参加したというのがほぼおおむね公式発表だと思います。私は2日間、全日程出ましたけれども、この2,000人の数がどうだったかわかりませんが、大体このぐらいじゃなかったかというふうには判断しております。率直に言って、このフェスティバルについてはこの30日に実行委員会があるそうでございますけれども、これはもう所期の目的を達成したのか、それとも不成功だったのか成功だったのか、その辺についてどのように考えておるのか、まず伺いたい。もちろんある程度成功だったから継続してやるということなのか、十分じゃなかったけれども、不十分な点は反省して、ことしやればもっとよくなる、こういう観点で今度の予算を組

んだのかどうかということについて、まず第1点お伺いしたい。これは第1点の質問です。

それから、2番目には本年度500万円でやるフェスティバルはその規模はどのぐらいなのか。去年は何か2,000万とか3,000万とか言っていましたけれども、ことしのその規模は去年と同じなのかどうなのか。内容はどうか、去年と比べてどういう内容になるのか、その点はどのように考えておるのか、2点目としてお伺いしたい。

3番目には、50周年の市の負担金は、これは一括でございますから、フェスティバルに幾らかというのは明細ちょっとわかりませんが、その額とそれから入場料とがあるわけですが、ことしはこの市の予算とそれから今度は入場料を取ると思いますけれども、その入場料は去年とことしと比較して単価は幾らぐらいの違いがあるのか。去年と同じ料金なのか。そして、その入場券を売る枚数は去年より多くするのか少なくするのか、この点についてお伺いしたい。

4点目には、去年予算編成のときには予算は少ないけどスポンサーをつけてやるということだったんだけど、予定したスポンサーが下りてしまった。したがって、その分は入場券を多く発行してやるんだということでもって、最終的にはツーパーになった、こういうことを言っているわけですが、思いますけれども、ことしはそういうスポンサーというものについては当て込んでおるのか、予定しておるのかどうなのか。去年も私は質問しました。スポンサーは大丈夫なのかと全員協議会で言いましたら、大丈夫だ、もう絶対ついているから、2つ、3つあるんだ、こういうことだったんですが、結果的にはつかなかったということでもって、何かちょっとむなしい気持ちだったんですけども、ことしはどうなんだ、言葉のやりとりじゃなくて、結果をきちんと踏まえてその点の見通しを聞かせていただきたい。

それから、今度4番目の質問に移ります。60ページでございます。13節委託料の中の公衆トイレ設計委託料120万円について御質問いたします。これはふるさと創生資金の目玉であるわけですが、人材育成ということでもってやられるわけですから非常に結構なことだと思います。こ

の点について私は4項目にわたって質問をいたしますので、ひとつお願いいたします。

1つは、人材育成基金を活用して実施するというふうに説明されております。そして、地域のリーダー育成ということでもってやるそうでございますけれども、そしてこの人材育成条例の冒頭には、この人材育成というのは自ら考え、自ら行う地域の行動づくりだというふうに規定されているわけでございます。いいですか。自ら考え、自ら行動する地域づくりのリーダーをつくるためにこの基金をやるんだということでもって条例にできております。これはもう目的でございます。それにもかかわらず、いきなり公衆トイレの設計でもって始めますということはどういうことなのか。自ら考え、自ら行動するようなプランの中の中で、このものは生まれてきたのかどうかということについて私ここで聞きたいんです。

そして、公衆トイレの設計との関係はどうなっているのか。これ委託でございますから。人に委託してやるんだったら、余りこれだけの広報でも募集して40歳以下の有能な人間を集めて、そしてスタートしたんですから。その人たちは研究して、自分たちの手づくりでどうしていくんだという研究を重ねた上でもってつくっていくと。館山市なら館山市の大工なり、そういうものを頼みながらやっていくというようなプロセスがあってもいいんじゃないかと。いきなりこれを業者に委託して、できたものはどうかという評論家的なものをやっていくんだったら、これはこれだけの人間を集めてやる必要はないんじゃないかと。そういう点について、ここでもっていきなり公衆トイレの設計委託料が120万円ぼんと出てくることについて、私は今の段階でもってこの自ら考え自ら行動するというこの目標と比べて非常に不思議に思うんですけども、この点をどのように考えておるのかお伺いをいたしたい。

したがいまして、3番目に公衆トイレということをついだれがどこで決めたのか、決定したのかははっきりさせてもらいたい。このことについては、ニューリーダーを募集するときの広報にトイレ等の研究等をしていくということはもう出ているんですよ、文書として。トイレとは決定していませんけど、等をやっていくということでもって、もうそこでもって既成事実として出て

いるんです。おかしいなと思ったんですよ。私は基金条例のときは自ら考え自らやる地域リーダーという中でもって、既にもうトイレ云々という言葉は入っているんです、その中に。だから、これはもう悪い言葉でいえば官僚的、上から、市が押しつけにやったものじゃないか。地域リーダーをつくるという議会でもって議決した条例、基金条例とは全く違反しやしないかと、こんなように思うわけでございます。

せっかくの制度が私は台なしになってしまう、この点を非常に心配するので、私はこの点をあえて強調するわけなんですけれども、これをどこでもってだれがどのようにして決定したのか。この点について聞きたい。決定されたものについては、委嘱されたリーダーが何回か会議開いているんですが、何回会議開いたのか。その会議の中でもってこのトイレの問題についてはどのような論議がなされて、そしてどのような設計頼んでいこうかというようなことが論議されたのか。その上に立って今回の予算が120万というものは提案されてきたのか。ちょっと今までの経過から見ますと、まだ二、三カ月というような状況の中でもって、これだけの予算が提案されてくることについては私はちょっと納得ができないし、その趣旨から言ってやっぱり自ら考え自ら行動するという面からいくと、余り押しつけでもっておざなりの形式というふうになってしまうと、せっかくのものが私は台なしになるんじゃないかというふうに思いまして、この点についてわかりやすいひとつ御答弁をいただきたい。

それから5番目に移ります、62ページ。19節補助金の中に暴力団対策補助金30万円、それから24節の出資金中、県暴力団追放県民会議出捐金81万1,000円、この点についてお伺いしたい。館山市は一昨年、その暴力追放都市宣言をしたわけですから、これは推進するのは当然だと思います。そこでもって2つ伺います。

1つは、市の防犯協力会に対して30万円の補助金を行って、暴力追放運動を進めているということ、これは結構なこと。この点については昨年の予算議会でも質問が出まして、30万円でもってある程度の目的は達成できる。十分云々というのはその主観論であって、これだけあれば十分その目的を果た

せる、こういう答弁であった。しかしながら、今回県の県民会議ができたからって、その3倍近くの81万円の予算を県が組んでやらなきゃならないということ、市の予算の3倍、それだけの要があるのかないのか。

そこでもって2番目は、この81万円の市の3倍もの予算を組んでやらなきゃならないという内容はどういうものなのか。そして、その内容は館山市にどれだけメリットがあるのかないのか、この点について聞かせていただきたい。ただ出せというか、出すというわけにゃいかんだろうと思うし、館山市が30万円でもって県が81万と。そしてはいはい、県だから出す、こういうわけには私いかない。この点についてひとつわかりやすく御説明をいただきたいと思います。

次に、6番目の質問に移ります、75ページ。13節委託料、ここに民生委員業務委託料 324万 2,000円でございます。前年より58万 6,000円の減でございます。福祉都市を目指す市長として、このように58万円減になるということについては、私はやはり行政委託と同じようにちょっと問題があるんじゃないかというふうに考えるんですけども、この予算を分析してみますと、民生委員の数は昨年と同じ93人ということで積算されております。県の支出金も同じように9万 3,000円ということでもって同額でございます。しかしながら、現実的には58万 6,000円の減になっているわけでございますけども、この内容と理由についてお聞かせをいただきたいと思います。

7番目の質問に移ります。128ページ。13節委託料中、館山駅東口地区市街地再開発等基本計画作成委託料、それから129ページの19節補助金中、東口D・E研究会 100万円、まちづくり推進協議会30万円、この件についてお尋ねします。3点にわたって聞きます。

1つは、市街地開発事業を推進するため、基本計画の見直しをするということでもって予算が組まれているわけでございますけれども、どういうことで見直しをしなけりゃならなくなったのか、どういう見直しをしようとしているのか、その内容と経過について教えていただきたい。

2番目には、補正予算で昨年度 350万円、この基本計画の委託料が未執行になっていることでもって補正予算に今減額が提案されております、未執行

だということでもって。本年も 367万 5,000円の予算が計上されているわけ
でございますけれども、去年未執行になった理由と、ことしはこれでもっ
て執行できるのかどうなのか、この点についてどの程度のものができるのか、
この点についてお伺いしたい。

3番目には、この東口D・E研究会とまちづくり推進協議会については毎
年 100万と、それから推進委員会には30万ということでもって補助金が行り
ているわけでございますけど、かなり長くなってきております。その成果は
どのようなものが上がっておるのかどうなのか。これはD・E地区のA街区
というんですか、この地域の人たちに出しているんだそうでございますけ
ども、しかしながらそのA街区じゃない、そのほかの例えば若松屋の方だと
か、駅の真ん前からちょっと外れたようなところの方の街区の人たちは、利
益相反するということでもって反対を軒並みにしておる。そっちの方には補
助金は1銭も出ていない、こういうことでもって非常に不満もあるわけでご
ざいます。

推進するという方には補助金を5年も6年も出しておいて、片っ方の方には
出ていない。むしろ私は再開発を推進するにしていという人については、
余りその補助金出さなくたってこれは進むと思います。だめだ、だめって反
対している人にもって、おまえらなんでだめなんだと、よく研究してみろ、
いいんだよといっているいろいろとよそを視察させたり、勉強させて、ああこれ
じゃいいということでやらせればいいんじゃないか。いいという人はそっち
こっちを見に行っていて、そのために 100万も予算使って毎年行っている。
それで、反対している人たちには予算が全然ない、研究費も何もないという
ことで、これは反対じゃないかと私は思うんですけれども、そういう面では
いいと言っていないがまだに未執行に終わるとか、そうしてあれが進んだ
ような様子が余りないということでもって、そこら辺の成果、私はもう一日
も早く期待しているわけでございます。

ですから、私はこの場合にはその反対しているグループの中に制裁加えて
いるとは思いませんけれども、おまえら反対しているから補助金も出さない
よと、こういうことがあっては、これじゃちょっと行政のあり方じゃないん

じゃないか。私はむしろ反対に、反対する人たちに反対する理由は何だということでもって、腹を割って行って、そして視察もし、研究もし、補助金出しゃいいんであって、賛成している人は賛成なんだから少しぐらいほっぽっておいてもいいんじゃないかという、仮にそれはちょっとオーバーかわかりませんが、そういう点についてどのようなお考えになるのか教えていただきたい。

それから8番目、142ページ。15節工事請負費でございます。北条小学校の校舎等改修工事請負費 800万円でございます。この点について、3点にわたって御質問をいたしたいと思います。1つは、北条小学校の改修工事はとして3年目を迎えるわけでございますけれども、一応改修計画のどのぐらいが進んだのか、あと1年度残っておりますけれども、これで完了を来年度でもって見るのか。その完成、来年度でもって終わったときにはこの北条小の耐久度は何年ぐらい見越せるのか、計算されていると思いますので、その点について教えていただきたい。

2番目には、北条小の10年先の生徒数、学級数、こういうものについてはどのようにとらえておるのか。今館山市の人口は減少傾向でございます。出生数も非常に減っております。小さくなればなるほどその幼児数の数は減っております。統計でも明らかでございます。これから10年先の館山の小中学校の生徒はもう激変するんじゃないかということが、もうはっきりしているわけでございます。社会的な移動のない限りについては相当激変するわけでございますけど、こういうような生徒数、学級数の見込みと対応しての修理なのかどうなのか、この点について2番目にお聞きしたい。

3番目には、七、八年前に館山二中から三中が分割されてできたわけでございます。館野、九重を統合してできたわけでございますけれども、このとき私は館山二中のPTAの役員やっておったわけでございます。当時、教育委員会からお偉い方がたくさん来まして、とにかく二中を割ってくれ、私はだめだ、二中の伝統なぜ割るんだ、同じ学区内に2つの学校ができるなんていうのは前代未聞だ、こういうふうなことでもってやっていったんですけど、何しろ二中は大き過ぎる。これじゃいい教育ができないんであって割る

んだ、それで適正規模にするんだ。もちろんそのときも、じゃ北条小学校の方が二中より大きいじゃないか、あそこはほっぽっておくのか。いや、北条小学校も分割は考えております、あのままじゃだめですからということでもって説得した。私は、北条小学校もやるんじゃないだろうなということでもって最終的には折れた。PTAの役員もそういうことでもって、しようがない、じゃ三中——これ以上反対したってしようがないからやりましょう。じゃ、そういう教育の理想に向かってやるんならということでもってやったことを、非常にもう強烈に覚えているんです、私は当事者だったものですから。

その後、その話はちっとも出てきていないんですけども、その北条小学校の統廃合の問題、分割の問題というのはどうなっておるのか。この点については今計画があるのかないのか。あるとすれば、あの当時は何か長須賀地域とどこの地域は重ねてどうのこうのといういろんなことを言っていました。地図的にもっともらしいことを言っていました。ああそうかなと思って、北条小学校は管外ですから余りにしなかった、大卒で覚えておったんですけども言うておりました。私はもう三中ができると同時に、今度は北条小学校に移るんだなというふうに思って、当時のPTAの役員はみんなそう言うておりました。それがやはり分割の決め手というふうに私はなったんじゃないか。私どもにはそれが決め手で、北条小学校やるのに二中だけ頑張ってもしようがないかと思いましたが、それは事実でもって、ほかはどうかと思いましたが、そういう経過がありながら、それがもうできちゃったらあともう全然なしのような感じがするんですけども、なしなんでしょうか、あるんでしょうか、その点あるんだったらこの点についてひとつ教えていただきたい。いつごろどのようにそれは考えているのか、継続性について教えていただきたいというふうに思います。

それから9番目、158ページ。13節委託料でございます。これは、小中学校の体育振興費 627万 9,000円、それから次のページの19節補助金の中の市体育協会 517万 4,000円、婦人スポーツの46万、スポーツ少年団の 189万 2,000円、この件について御質問を申し上げます。5点について御質問いたし

ます。

まず第1点は、小中体育の振興費として 627万 9,000円、去年とほぼ同じ額でございますけど、これはどういう配分方法でもって行われておるのか。そして、どのような成果を上げられておるのか、その点について教えていただきたいと思います。

それから、2番目には体育協会の補助金は前年対比でもって52万 6,000円の減額でございます。婦人スポーツも20万円の減額でございます。スポーツ少年団は同じでございます。これはどういうわけでもって体協、婦人スポーツの予算が昨年対比から減額になっておるのか、この点についてその内容を教えていただきたい。

3番目では、通告質問の中でもって、時間切れでもって終わってしまいましたわけでございますけども、県民体育大会は開かれる。剣道、軟式庭球、バスケット、体操の4種目が行われるわけでございますけども、市には予算がない。これについては、県並びに体協とか各部会に予算が計上されるのもって市としては盛っていない、こういう答弁であったわけでございます。しかしながら、体協は予算が減り、そしてスポーツ少年団とか婦人バレーの予算が去年と全く同じ、おとしと全く同じということでは、県民体育大会が4会場スムーズに進まないんじゃないかというふうに思うわけでございますけれども、この点についてはその体協なり、スポーツ少年団なり、婦人スポーツクラブ、これは館山市の3大スポーツ団体と言われているわけでございますから、これらの予算がそういうものについて組織されているような様子はないんですけれども、この点についてはどのように考えているか。

4番目に、体協を初め関係団体でもって実行委員会をつくっていききたい、こういう答弁が行政質問の中でもってなされました。ぜひやっていただきたい。これに対するところの実行委員会つくるということでございますけれども、この運営費とか活動費というのがどこから捻出されるのか、市の予算の中には見えないんですけれども、どこからどのようにして捻出してやっていくのか伺いたい。私は、先般の国体のときの館山会場のその実行委員会の委員やっておりましたもんですから、相当な予算もあったし、あそこで国体

準備室もつくって、相当の人数が多いときには10人を超えるスタッフでもってやっておったんですけども、ことしはそういう点について今の体育課の人事、率直にいいまして私は今やっている仕事は手いっぱいじゃないか。それで県民大会4種目入れて、これを消化していくにはちょっと私は無理じゃないかと思うんですけども、これは今のスタッフだけでやっていけるのかどうなのか。それとも、これから4月から補強して、これを秋に開催されますから、秋までの間充実したひとつ準備室なり特別対策室、そういうようなものを国体と同じような形で持つ気持ちがあるのか、計画があるのか、この点について伺いをしたい。

5番目には、開催地の歓迎体制でございます。これはもう開催地でもって歓迎というのは、その市のもう考え方ひとつだと思うんですけども、普通やる会場には花を飾ったり、道路には花いっぱい運動をしたり、それから婦人スポーツクラブの人たちがお湯の接待をしたり、スポーツ少年団の団員がたばこの始末だとかごみ拾いしたり、清掃運動をしたり、いろいろなことをやって、案内係等をやって、そしてその選手を非常に気持ちよくさせてやってくれる。それやるかやらないかは勝手かというんですけど、私は若いころからいろいろなスポーツ団体の代表でもって、全国大会とかその他へ出ておりますけれども、行った町村によって非常に違うんです。こういうものをまちぐるみでやってくれるところになると、ああこのまちはすばらしいな、人情も豊かだなというふうな感じでもって非常にいい印象がある。何もやらないところについては、何だこのまちというのは随分冷たいとこだな、殺風景なところだなという感じがいまだに残っている。この印象というのは大変なものだと思う。そういう意味でもって、5年に1回回ってくところの開催地として、こういう面の予算はこれから組まなくてもいいのか、やらなくてもいいのか、その点について伺いたい。

同時に、この市民スポーツの普及、競技力の向上というのは開催地の1つの義務的なものになっております。義務というとおかしいんですけども、そういうことをやるのが開催地の意義があるんですけども、そういうふうなものの予算も組まれていないようでございますけど、せっかく開催するんです

から、そういった競技力の向上、市民スポーツの普及というものをやはりあわせて予算化もしていくべきじゃないかというふうに思うんですけど、この点についてひとつ予算化されていない点についてはどんなふうに考えておるのか。私も体育関係の県の方の役員もやっておりますし、この問題についてはいろいろと直接、間接、県の方からも — 県の体協の方からも辻田さん、館山のひとつ予算の方も頼むよというふうなことも言われておりまして、非公式でございますけれども、私に頼まれても市長じゃないから、そうはいかないから、議会の中で十分反映させておきますよ、こういうことでもって目いっぱい館山、スポーツ館山のメンツにかけてもやりますというふうなこと — これは冗談でございますが、そういうようなことも言われておりまして、私はそういう面からも、これはそのまま受けとらなきゃいけないように、予算が全くないということについては非常に残念と言わざるを得ないので、この点についてお伺いしたい。

それから、今度は特別会計の国民健康保険特別会計に移りたいと思います。206ページ、最後の質問になります。長くなって申しわけありません。この国民健康保険料につきましては館山市の特別会計の中じゃ最も関心が高く、議会のたびに質疑がなされているわけでございます。この通告質問の中でも日下議員が保険料は安くならないかと、こういう質問を大上段にいたしましたわけでございまして、極力安くするように努力している、一般会計からも組み入れてやっています、最低限にとどめています、こういうことでもって終わったわけでございます。その前の議会等も、保険税の問題についてはもう入れかわり立ちかわり、安くならないか、安くならないかということでもって、大変な論議でございます。この点については市長もよくご存じだと思います。それでもって、これをどう受けとめているかということでございます。そういう中で、この 206ページの13節、委託料の中に健康まつりが130万円、産業まつりが45万円の予算、そして15節に工事請負費として長寿健康都市宣言の広告塔が150万円計上されているんです。このことについて、今言ったような立場から4点にわたって質問いたします。

まず、保険税の引き上げが今市の課題になって、また議会でも最大の関心

を持っておるにもかかわらず、このこういう予算を入れれば保険税が上がる
ことになりやしませんか。保険税にこれはひっかかっていくでしょう。幾ら
か高くなるんですよ、これはやることによって。この点をどのように考えて
おるのか。それまでにしてこの健康まつり、産業まつり、広告塔を建てな
きゃならないというのは、保険税でやらなきゃならないということ、なぜ一般
会計の中でできないのか。今まで一般会計でやってきているんです、健康ま
つりだとか産業まつりは。ことしになってこっちへ持ってきたわけです。そ
のメリットは何なのか。保険料を上げるような結果になってもここへ持って
こなきゃならないそのメリットは、具体的にわかりやすくおっしゃってくだ
さい、このメリットを。余り難しくなくてわかりやすくで結構でございます
から、このメリットがどこにあったのか。

3番目にはその総合計、325万円はこの国庫補助金だとかその他のないわ
けです。結局保険税で賄われるわけじゃございませんか。保険料の単価に入
ってるわけでございませんか。1円でも2円でも上がる材料になっているん
じゃありませんか。マイナス材料になりません。なぜこういうことをするの
か。今までのこの議会の論議、そういうことについて私は軽視しておるのか。
それとも全く、そういうことについてはもう無感覚なのかどうなのか、私は
もうこれだけ議会でもって毎回毎回、一昨日の議会の中でも日下さんがあれ
だけ下げてくれ、下げてくれと言っているのにかわらず、上げるよう
なことをぼんとやってくる。これはもうどういうことなのか、1円、2円と
細かくてももうこの問題は私は大変な問題だと思う、精神的に。これはどう
してやったのか、この点についてお伺いしたい。

それから、4番目には長寿健康都市宣言の広告塔でございます。なぜ、こ
れは市が議会決議したんですよ。市の都市宣言ですよ。それをなぜこの国民
健康保険でやるんですか。国民健康保険の加入者というのは半分ですよ、市
民のうちの。あと共済組合だとか社会保険だとか、ほかの保険でやっている
んですよ。そして、その保険会計でやっている半分の人たちが捻出してやっ
ている、その保険税の中からこの広告塔 150万円、少ないことだから文句言
うなとこういうかもわかりませんけども、少なくともこういう点はけじめつ

けてもらわなきゃならないんですけど、このものを入れなきゃならないか。なぜ国民健康保険のための都市宣言なのかどうか。これは市民のためだったら一般会計でやるのは当たり前じゃないですか。これは当たり前だというふうに私は思うんですよ。私は当たり前じゃないのか。当たり前じゃないならなぜ当たり前じゃないのか。なぜ国民健康保険でもって都市宣言の広告塔をつくんなきゃならないのか。その場合に保険税を下げてもらいたい、下げてもらいたいと言っている。保険税というのは、保険に加入している館山の約50%弱の人だけでもって賄われているという特殊な中において、そこへ全部これぶっこんでいくということは、私は大変なことだと思いますよ。これは姿勢の問題として大変だと思うんですけども、この点についてひとつ御答弁をいただきたい。

以上、よろしくお願いいたします。

◎議長（林 豊君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 辻田議員の御質問にお答えをいたします。約1時間にわたって大変御高説を拝聴いたしました。どうも御質問の趣旨が読み取れない場合もございますので、答弁漏れがありましたら担当部長より御説明をいたさせます。

まず、予算規模の問題でございますが、他市に比較して予算の伸び率及び1人当たりの予算額が低いという御趣旨でございましたが、毎回申し上げておりますとおり、各自治体における歳入歳出の予算の規模につきましては、それぞれの地域の特性、すなわち寒冷地であるとか、地すべり等災害事情が多いとか、過疎地を抱えているとか、いろいろ異なる環境の中で住民のニーズにあわせ、さらに財政力を考えて、長期的な視点に立って計画的に事務事業を進めている、そういう結果でございまして、一概に比較することは甚だ困難であると思います。また、予算編成に当たりましては極力当初予算計上を心がけておりますけれども、各年度において市として国、県支出金を伴う事業や災害等の補正がありまして、当初予算に比較して決算はふえる傾向にあることはどこの自治体においても同様でございます。したがって、予

算は当初予算、決算ごとに比較すべきものと考えますけれども、いずれにいたしましても本市におきましては前年度における市制施行50周年記念事業や県事業である館山運動公園負担金など、特別なものを除くと実質的には10%を超える伸びになっているわけであります。

次に、地方債の残高と公債費についての御質問でございますが、御承知のように通常自主財源比率が60%程度の自治体においては、事業の実施に要する財源を起債に求めざるを得ないのが現状でございますが、同時に長期にわたって効用を及ぼすこれら事業の実施に当たっては、地方債が持つ本来の機能を生かし、財政の健全性を損なうことなく、その運営に弾力性を持たせるためにもその負担を後年度に繰り延べ、住民負担の均衡を図る必要もあるわけでございます。本市の起債による事業の投資につきましては、その大半は館山市が従来からその整備がおくれていた分野での投資でございますが、安房郡市の中核都市として都市の発展及び館山市に住んでいる人たちが快適な生活を送るため、必要欠くべからざるものでありまして、主なものとしたしましては産業基盤整備のほか、ごみ、し尿等の処理施設や道路、下水路、公園等の生活関連の都市整備、さらに次代を担う青少年のための学校建設等、教育施設の整備充実に努めたものでございます。したがって、市民はその効果も十分に受益しているものと考えております。

なお、ここ数年財政状況を見きわめながら、繰り上げ償還を含む起債の抑制基調に努めるなど、将来の事業実施に備えておりますけれども、御指摘のとおり館山市におきましては東京湾横断道路時代に向けまして、公共下水道や都市再開発、道路整備など大型事業が予定されており、今後ともあらゆる分野において国、県補助金等、積極的な財源確保に努めるとともに、起債の有効活用を図りながら、地域発展のため全力を傾注してまいりたいと考えております。

次に、行政事務委託の減額についての御質問でございますが、平成元年度当初予算は消費税がかかるものとして3%を転嫁し、均等割 4,500円を 4,635円に、世帯割 680円を 700円といたしましたが、消費税は市政に協力していただく目的の行政事務委託料には課税されることが判明いたしましたの

で、各町内会には均等割 4,500円、世帯割 680円で交付してございます。したがって、平成2年度は世帯割につきまして20円増額してございますので、実質増となっているわけでございます。

次に、国際民族音楽フェスティバル負担金についての御質問でございますが、昨年の決算額は 2,224万 526円で、市負担金 1,060万円のほかに、入場料 647万 1,500円、協賛金 507万円、雑収入 9万 9,036円となっており、2日間で延べ約 2,000人の方が入場をしております。なお、去年は50周年記念事業として行い、新聞、テレビ、雑誌等で紹介されたほか、県を初めといたしまして、市の宣伝やイメージアップに高い評価を得ておりますので、継続することが大切だと考えたわけでございます。本年につきましては、これから実行委員会で検討されますが、規模を若干縮小するなど、第1回の反省点を踏まえ、実施いたしたいと考えております。

地域リーダー育成事業委託料についての御質問でございますが、事業の目的は人材育成であり、今回実践するテーマとしてトイレを設定いたしました。初回でもあり、共通した身近で実現性のあるテーマということで、若い市職員のプロジェクトチームで検討し、企画審議委員会を経て決定をいたしました。なお、今回のテーマにつきましては、参加者の了解を得て既に活動をしているところであり、2回目以降につきましては、参加者自らが調査、研究、実践活動をする中でテーマを探し、設定していただく予定でございます。

次に、暴力団対策補助金の問題でございますが、財団法人千葉県暴力団追放県民会議への出捐金81万 1,000円につきましては、県民総ぐるみによる暴力団追放運動を目的といたしまして、平成元年6月に設立されました同法人の基本財産醸成のための出捐金でございます。この出捐金は県が4億円、市1億 5,000万円、町村 5,000万円、民間 1,970万、合計6億 1,970万円を3年間で醸成しようとするもので、このうち館山市出捐分 243万 3,000円を平成2年度から3年間で負担するものでございます。県民会議の事業といたしましては、1つ、暴力団排除意識の啓蒙、2つ、暴力団に対する監視、3つ、暴力団に関する相談、4つ、暴力団の不法行為等にかかわる被害者の保護及び救済、5つ、暴力団排除対策の調査研究等がございまして、本市におきま

しても監視員及び相談員が委嘱されており、また被害者救済事業につきましても、適用を受けております。

館山市防犯協力会への暴力団補助金につきましては、昭和62年度から交付をいたしております。昭和62年度はテレホンカード、昭和63年度は暴力団、暴力追放宣言都市のステッカー、平成元年度は暴力追放啓発用チラシを作成、配布いたしましてその啓発を図っております。現在の補助額30万円につきましては、防犯協力会から特に増額要望等は伺っておりませんが、今後も安心して暮らせる住みよいまちづくりのため、暴力追放運動を積極的に推進してまいります。

次に、民生委員業務委託料の減額の理由は何かという御質問でございますが、平成元年度は民生委員の改選期に当たり、3年に1度の研修旅行を実施いたしました。平成2年度においては県外研修の計画がございませんので、その研修旅行経費の減によるものでございます。なお、活動費につきましては、総務3万円を3万2,000円に、一般委員2万6,000円を2万8,000円に増額してございます。

次に、館山駅東口地区市街地再開発等基本計画の見直しについての御質問でございますが、市街地再開発事業の合意形成を得るために地権者との話し合いを進めているところでございますが、この話し合いが整い次第、事業化への事務手続といたしまして、都市計画決定をしようとするものでございます。この都市計画決定を行うための基本計画を作成するものでございます。見直しの主なものといたしましては、昨今の激しい都市間競争の中での館山市の広域的な位置づけ、再開発事業により建てられる建築物の計画、区域の範囲等がでございます。また、当初予算に計上いたしました東口関係の予算につきましては、2年度は予算どおり執行できるかとのことでございますが、地元地権者及び関係者と十分話し合いを行い、合意形成をいただきまして予算を執行してまいりたいと存じます。

8番、9番の御質問につきましては教育長から御答弁をいたします。

次に、健康並びに産業まつりと長寿健康宣言都市広告塔の予算についてのこの3点を国保特別会計の中に計上した理由でございますが、現在厚生省の

補助事業として、ヘルスパイオニアタウンの事業がございます。この事業は国保被保険者のみならず、市民全体の健康の保持増進のための補助事業でございますが、国保特別会計の保健施設費に計上することが義務づけられております。したがって、本市が健康づくりとして進めておりますこれら事業を、ヘルスパイオニアタウン事業として国保特別会計の中に包括したものでございます。なお、健康まつり、産業まつりの一部費用及び市民の意識の高揚を図るための長寿健康都市宣言の広告塔の予算は全額補助対象でございます。

以上、答弁終わります。

◎議長（林 豊君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えいたします。

北条小学校の校舎等改修工事の問題でございますけれども、御質問ですと800万とおっしゃいましたけれども、8,000万円の間違いじゃないかと思いますが、改造により今後どの程度の使用が可能なのかという御質問でございますが、来年度の改築改造の主なものはスチール製建て具をアルミ製品と交換、渡り廊下の改修等でございますが、今後20年間は現状のままで使用できる見込みでございます。

それから、2の児童数減少の中で向こう10年間程度の学級見込み数並びに生徒数はどうかと、こういうような御質問でございますが、平成2年度は普通学級28、特殊学級3、生徒数1,092人。平成3年度は同じく普通学級28、特殊学級3、生徒数980人。平成4年度は普通学級27、特殊学級3、生徒数942人。平成5年度は普通学級26、特殊学級3、生徒数907人。平成6年度も同じく普通学級26、特殊学級3、生徒数913人。平成7年度は同じく普通学級26、特殊学級3、生徒数927人と、このように私たちは予想を立てておるわけでございます。平成8年度以降も当分の間はこの学級数で推移するものと予測いたしております。

それから、北条小学校の分割はどうかというような、計画があるかというような御質問でございますが、なぜそういう分割の話が出てきたかといいま

すと、恐らく私の推測するところによりますと、大体大規模校と称されるのは30学級で生徒数が1,000人以上ということで恐らく出てきたんじゃないかと思いますが、今申し上げましたとおり間もなくして1,000人の生徒——1,000人減少いたしますので、これからは恐らく分割する必要もないんじゃないかと、このように考えておりますし、現在のところそういう計画もございません。これらの北条小学校関係のお答えでございます。

それから、小中体育振興費と体育団体補助金と県民体育大会についてでございますが、小中学校体育振興委託料627万9,000円の内訳でございますが、体育振興強化費261万円、県総合体育大会派遣費335万8,000円、事務局費31万1,000円でございます。体育振興強化費のうち小学校費は60万円、中学校費201万でございます。経費の配分の基準でございますが、小学校の強化費につきましては各学校均等割、大会出場回数割、選手派遣人数割で支給し、中学校の強化費は各学校均等割で支給しております。旅費につきましては運賃に登録選手数を乗じた額を支給しております。なお、市内での行事につきましては学校より4キロメートル以上の場合に支給しております。

体育団体補助金についてでございますが、市の体育協会補助金517万4,000円の内訳は県民体育大会費168万8,000円、各部普及費及び大会事業費248万6,000円、選手強化費100万円となっております。これは前年度に比較し52万6,000円減になっております。本年度から県民体育大会が巡回開催になり、船橋地区を中心に行われ、来年度は安房君津地区が会場になるため、交通費、宿泊費が減少したためでございます。選手強化費は新規事業として予算計上いたしました。市の婦人スポーツクラブ補助金46万円で前年度に比較しますと20万円の減額となっておりますが、この減は本年度婦人スポーツクラブ20周年を迎え、記念行事を行ったところで予算20万円でございます。市のスポーツ少年団育成補助金は189万2,000円で、前年度に比較して2,000円の増額となっております。

県民体育大会、地元会場への協力方につきまして、今後関係団体と協議してまいりたいと思っておりますが、基本的にいいますと5月ごろこの担当者の会議がございまして、それによって詳細が決められるというようなことで

ございます。

御質問によりますと、かつて行った国体に比較いたしまして、県民体育大会の接待、あるいは準備がちょっと手ぬるいじゃないかというような御質疑もございましたんですが、私も各地の国体に行きまして、非常に派手に、立派に、盛大に行われておりますが、県民体育大会はそれに比較しますと確かに質素で簡素でございます。私たちが館山市の関係者として千葉市へ行ったり、あるいはほかの市等お伺いしても何かそういう湯茶の接待等というのはほとんどないというのが現況でございます。体育協会長の関和雄氏にもどうだということで私も御質問申し上げたんでございますけれども、私も各地に呼ばれたけれども、それほど華やかに接待を受けたことはない。ですから、特別準備することもないんじゃないかというようなことをおっしゃっております。

今度の来年度の県民体育大会は一応南部地区ということになっておりますが、中心は君津、木更津でございまして、富津市に中心の事務局が置かれるんだそうでございまして、その事務局の活動指示によりましてこれから準備を行っていききたいと、このように考えております。また、この担当者の打ち合わせ等によりましては、いろんな問題も出てくるやに考えますので、御質問にありましたとおり、せっかく南部で県民体育大会が行われるわけでございますので、市民にもこの体育のよさを理解していただき、より一層体育が活発になりますように、また同時にこれを機会に館山市の競技力の向上がなされたならば非常にうれしいことである、このように考えて全力を挙げて努力をいたしたい、このように考えているわけでございます。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 21番議員。

◎21番（辻田 実君） 随分いろいろと質問したつもりだったんですけども、何か抽象的な答弁でもって、もっと詰めていかないと本当にこの血の通ったこの市と議会というものは生まれないんじゃないか。また、その市民と市というものが生まれないという感じがいたしておるわけでございますけれども、私はこれから2点だけは特にこの注文をつけておきたい。ほかの面

につきましては予算委員会がありますから、予算委員会は私より優秀な人がそろっておりますので、私が答弁もらいたいところについては再度深めてもらいたいということでもってやめますけど、2点だけはちょっと要望的な質問をいたしておきたいと思います。

1つは、この財政の問題だけは私はもう同じ答弁、地域の実情だとか、それから財政の規模だとか、一概にそういうふうなことでもって言い切れないんだと、こういうことでございますけども、さっきも私数字並べたとおりなんですよ。これはもう全く平行線でございます、そういう問題じゃ私はないと思いますよ。これはここでもって論議したって、もう何時間たったってもうしょうがないと思います。今までも何回もやってきたんですから。今回はこれだけ細かく私が出してやったんですから、後でもって十分対処してもらわなきゃ、これはもう館山市はどうにもなりませんですよ。これは、予算委員会等でも十分深めてもらうところであろうと思いますので、その点についてはあれしていきたい。

それから、今度はことは大きな館山市だけでなくて県民大会の開催があるわけです、ブロックで。去年の3月の議会でもって、教育長は私の県民大会の開催についてどのように考えているんだという質問についてこのように答えているんですよ。「そもそも県民体育大会の主たる会場を各地に持っていくということは、各地域にそれぞれのスポーツを盛んにするということが大きな目的であろうかと思います」、こういうことを言っているわけですよ。私はこれをもうストレートに受けて、ああそういうことでお願いしますということでもって去年の3月、そして6月にも同じスポーツの振興についてやってきている。しかし予算がない、ここになるとちょっと私は寂しいんですよ。もうちょっとこの言葉からいって、この趣旨に沿った対応がやっぱりなされてもらいたい。議会でもってやっぱり答弁をされたことについては、私は単純ですから、まともに受けますので、これだけ地域のスポーツを振興させる、盛んにするということが大きな目的でありますということで、これだけきちんと答えられていると、予算がありませんどうこうということじゃないんじゃないか。

そこら辺についてこれからの問題でございますから、私も一翼を担っている面もありますし、議会の中のスポーツ振興対策委員会というふうなまがりなりにも持って一生懸命やっているつもりでありますので、この県民大会はひとつ館山市らしい、やはり館山市はスポーツの伝統を持つやはり古い県下で5番目にできたしにせの市であるというふうなことをやっぱり示してやりたい。館山へ行ったらもうお茶くみもないし、花もそこら辺でばらばらで、花の館山何だなんて言われることはないように、私は特に県へもうしょっちゅう、一月に1遍ぐらい県の体協へ行っているものですから、そんなことあったんじゃもうはねちゃうし、私はねるだけじゃなくて館山市民の恥になるんじゃないかと思えますんで、そういう点はどうかやりとりしませんから、これはもう今後の問題でございますからこのままじゃいかぬというふうに思います。

時間もちょうど12時になりましたので、以上の点をひとつ予算委員会もあることと思えますので、私は以上をもちまして、了解したというわけではございませんけれども、質問は終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

◎議長（林 豊君） 以上で、21番議員辻田 実君の質疑を終わります。

以上で通告をした議員のほかに、通告をしないで御質疑をお持ちの方ございませんか。――質疑なしと認めます。よって、質疑を終結をいたします。

予算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

◎議長（林 豊君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております議案第1号乃至議案第7号平成2年度各会計予算につきましては、10人の委員をもって構成する予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。ただいま設置されました予算審査特別委員会の

委員の選任については、委員会条例第5条第1項の規定により、

5 番議員 岩村 勝弘君	7 番議員 生稲 陞君
8 番議員 鈴木 勝美君	10 番議員 鈴木 忠夫君
11 番議員 神田 守隆君	13 番議員 山中金治郎君
20 番議員 福原 勤君	22 番議員 黒川 平治君
26 番議員 近藤 好雄君	28 番議員 飯田 義男君

以上、10人を指名いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

ただいま選任されました予算審査特別委員会の委員の方々は、後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承願います。

延 会 午後零時04分

◎議長(林 豊君) お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明3月15日から25日まで委員会での議案審査のため休会、次会は3月26日午前10時開会といたします。その議事は、議案第1号乃至議案第7号、議案第9号乃至議案第24号等にかかわる各委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際、申し上げます。各議案に対する討論通告の締め切りは3月26日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第1号乃至議案第7号

1 予算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任